



見方を変えると
面白いかモウ？

2017 学部案内



山形大学農学部

Faculty of Agriculture, Yamagata University

食料・生命・環境科学の課題解決に挑戦

現在の地球で人類が抱えている、温暖化、食料不足、資源の枯渇、環境の破壊、生物多様性の減少等の、課題の解決策を探求する学問分野が「広義の農学」です。

山形大学農学部は、「広義の農学」を広く学び、総合的な判断力やバランス感覚を身につける教育を重視しています。そのために、1年次に「広義の農学」を総合的に学び、2年次から自分の学びたい専門のコースで深く学ぶ、1学科6コース体制で教育と研究を行っています。食料・生命・環境科学の幅広い知識と課題解決能力を身につけたいと希望する皆さんをお待ちしています。

山形大学農学部が位置する山形県庄内地方は日本海側の豊かな自然の恵みを利用した農林業が盛んな地域です。地域が抱える課題を身近な現場のフィールドで学ぶことができるのも本学部の大きな特徴です。さらに、下図のように国際交流も活発に行っており、現在海外から42名の留学生が日本人の学生と一緒に研究室でのゼミや調査、実験を行っています。地域の個別課題から地球規模の大課題まで、複雑化する問題解決に向けて、是非、私たちと一緒に学びましょう。



山形大学農学部長
林田 光祐



Germany



Mongolia



Spain

Bangladesh

China

Korea

Viet Nam

Sri Lanka

Thailand

Laos

Philippines

Indonesia



COMPLETION CEREMONY



OPENING CEREMONY

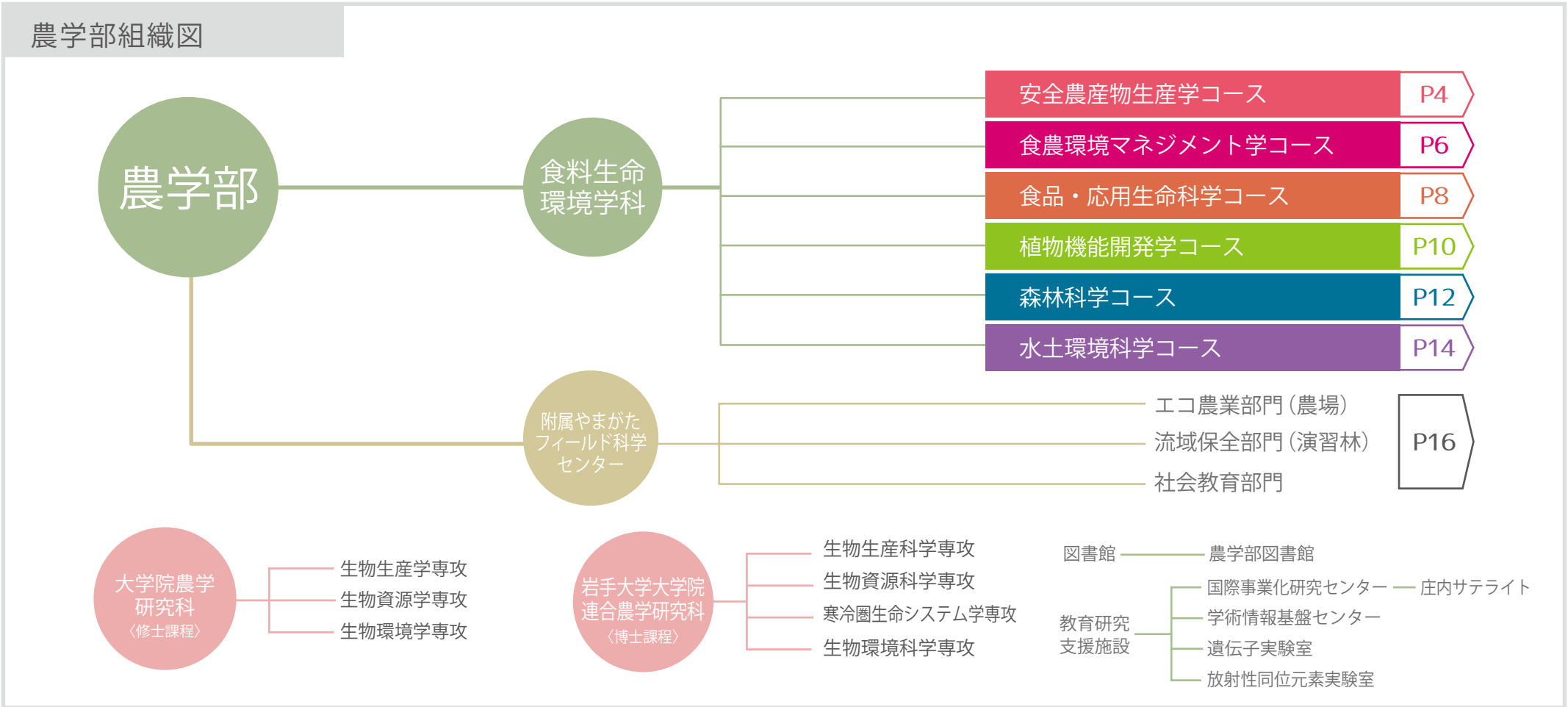
Peru

Chile

■山形大学・農学部に入學してから卒業まで



農学部組織図





安全農産物生産学 コース

環境を保全しながら、安全な農畜産物の持続的生産を担える人材の養成を
目指します



webページ

研究
テーマ

「窒素とリンの施用量がミニシクラ メンの生育開花におよぼす影響」

塩谷 拓郎 栃木県立矢板東高等学校 出身

私は観賞植物学研究室に所属しています。一般に、農作物は食べるために生産されますが、花は観るために生産されます。農業は食べるため、ひいては生きるための営みであると思っていた私は、食べられない花を栽培することの意義に興味を惹かれ、本研究室を選びました。現在、卒業論文として窒素とリンの施用量の違いがミニシクラメンの生育や開花にどのような影響を与えるのかを調査しています。ミニシクラメンは近年人気の高い鉢花ですが、高品質（葉や花数が多くバランスの良い草姿）な鉢花を生産するためには高度の施肥管理が求められています。肥料の各成分や施用時期を変えて側枝数や花蕾数等との関係を解析することによって、高品質なミニシクラメンを栽培するための適切な施肥管理を明らかにしたいと思っています。



卒業後の進路

国や地方の公務員、JA等の職員、民間企業、大学院進学など。
青年海外協力隊や非政府組織(NGO)など、海外での農業技術支援、さらに農業の自営を目指す人の養成も視野に入れ教育を行います。



主な授業

2
年次

フィールドサイエンス実験実習-I A・IB、安全農畜産物生産論
環境農学論、環境保全型農業栽培学、安全農産物生産学基礎実験

3
年次

安全農産物生産学研究調査演習、安全農産物生産学研究準備演習
安全農産物生産学実験実習

4
年次

安全農産物生産学研究演習-I、安全農産物生産学研究演習-II
卒業論文

教育研究分野

作物学



食用作物（イネ、ダイズなど）を対象に、気象変動対応型および環境保全型農業の技術について、植物・土壌・資材（特にケイ酸）の視点から教育・研究を行っています。

栽培土壌学



土壌と作物のフィールド調査および化学分析に基づき、持続性と生産性を両立する栄養管理に関する研究を行っています。

植物病理学



有用微生物による植物病害の防除と抵抗性誘導の機構解明や、イネ病害の発生予察、発生生態解明を主なテーマにして研究を行っています。

果樹園芸学



山形県の主要果樹や特産果樹を対象に、生理生態の解明ならびに栽培管理技術の高度化を目的とした教育・研究を行っています。

観賞植物学



鉢花や切花などの開花調節技術や山形在来の花の利活用に関する教育を行っています。

野菜園芸学



野菜の生理・生態や機能性の解明、栽培技術や長期間保存技術の開発、「植物工場」などについての教育・研究を行っています。また、積極的に留学生を受け入れ、グローバル化を推進しています。

畜産学



家畜を対象に環境保全と持続的生産を考慮した安全で良質な畜産物を生産するための理論と技術について教育・研究しています。

動物生態学



- 1) 生物多様性の創出とその役割
- 2) 植食者と捕食者の種間相互作用
- 3) 害虫の総合的管理などの研究を行っています。

生産機械学



農業生産における各種生産機械および生産施設の原理、作用、構造、性能を解明し、生産、機械、施設、人間、環境の関わりについて検討する分野です。



食農環境 マネジメント学コース

食農環境をマネジメントする理論とスキルを実践的に学ぶコースです



webページあり

主な授業

2
年次

食農環境経済学、食農環境経営学、食農環境政策学
地域・環境問題概論、食農環境システム論

3
年次

食農環境会計学、食農環境地理学、コミュニティビジネス論
地域地理学、食農環境調査論、社会統計と農業の経済分析

4
年次

食農環境マネジメント応用演習
卒業論文

教育研究分野

食農環境経済学



食料・農業・農村問題や資源・環境問題についての経済学的分析、農業・農村の活性化計画の策定方法やそのための合意形成手法に関する教育を行っています。

食農環境社会学



変貌する人と人との関係の在り方に焦点を合わせ、地域社会の将来像を展望すべく、歴史学・経済学・社会学を駆使して複眼的に考察する研究を行っています。

食農環境会計学



農業会計学の視点から、簿記の習得、さらには環境会計や農業経営のコスト及び収益改善に取り組むためのスキルを養う教育を行っています。

食農環境政策学



これまでの政策体系を学び、現在の食料・農業・環境問題を解決するために、国や地方公共団体において実施すべき政策について、考察する力を養う教育を行っています。

食農環境経営学



環境変化に対応した農業経営組織の発展と人材の確保・育成方策、農業技術の経営的評価と効率的な普及方法に関する教育を行っています。

食農環境地理学



農山村と都市との関わりを自然・社会環境から考察し、現在までの地域空間の変遷を分析して将来像を提起する教育を行っています。

研究
テーマ

「トマト生産地域の成立とその 背景としてのトマト食習慣の定着」

山下 美保 秋田県立角館高等学校 出身

普段何気なく口にしている野菜や果物、肉や魚はいつから日常的に食べられるようになったのでしょうか。例えば、現在スーパーにいつも置いてあるトマトは、いつ日本に渡来したのか正確な年代はわかっていませんが、江戸時代では観賞用の植物として認識されており、食用としてトマトが導入されたのは明治期と言われています。しかし、導入されてすぐに日本中で食べられるようになったわけではありません。生産量の増加や栽培方法の変化、新たな品種の登場といった生産的要因の他に、調理法の開発や食の欧米化といった消費的要因など、様々な要因が変化したり加わったりしながら、現在のように日常的に食べられるようになりました。

私が学んでいる食農環境マネジメント学コースでは、このように「食」を取り巻く環境を地域に密着しながら学ぶことができます。「食」に対してアプローチしていく視点は幅広く、6つの分野から総合的に知識を身に付けていくことができます。また、多角的に広く学んでいくことができる一方で、集中的に学びたいことに関しては掘り下げて追及することができるコースであるため、好奇心旺盛な人にぴったりなコースだと思います。

卒業後の進路

環境や食料問題、経営理論等に関する専門知識を備えた農業経営者やコミュニティビジネスなどの企業家、国や地方行政、民間企業に加えてNPO法人や市民団体のメンバーとして、食料・農業・農村・環境分野の発展に貢献する人材の育成を目指しています。



写真は、マウス卵染色体の動原体に存在するタンパク質BubR1(緑色)の蛍光免疫染色像。BubR1(緑色)は、染色体の異数性の監視に関与しています。

食品・応用生命科学 コース

バイオサイエンスの現場で活躍できる技術者・研究者の育成を目指します



webページ!

研究
テーマ

「イネのフィアレキシン生合成 遺伝子の進化」

湊 志帆 栃木県立宇都宮女子高等学校 出身

私はもともと食と健康について学びたいという思いから農学部に進学し、このコースを選択しました。しかし様々な分野を勉強する中で分子細胞生化学分野の面白さに惹かれ、現在の研究室に所属しました。この研究室では主に、イネの「フィアレキシン」というストレス応答性の抗菌性物質の生合成に関わる遺伝子について研究が進められています。私はイネ科植物の先祖とされるミナトカモジグサを研究材料としており、この植物の遺伝子を調べることでイネが持つ遺伝子の進化の過程を理解するヒントになるのでは、という考えから日々研究に励んでいます。上手い出来ないことも多いですが、試行錯誤しながら実験を進める中で新しい考え方を得られることが多く、毎日充実した研究室生活を過ごしています。

大学では様々な経験を通して、今まで知らなかったことに対しても興味の幅が広がったと感じています。皆さんにも充実した大学生活を送ってほしいと思います。



卒業後の進路

食を介する健康科学やバイオサイエンスの専門知識と技術を修得し、公的教育研究機関や民間企業等で研究・開発を推進できる人材の育成を目指します。主な進路には、大学院、食品品や医薬品等の開発・製造・販売業、化学工業、食品・環境分析事業、病院・医院(胚培養士)、公務員(農芸化学、食品衛生監視員、畜産)等が挙げられます。



主な授業

2
年次

バイオマス資源学、食品微生物学、細胞生化学
生命バイオ分析化学、分子栄養学

3
年次

微生物機能開発学、食品機能化学、遺伝子タンパク質工学
動物発生工学、食品創製科学

4
年次

公衆衛生学、食品製造学、研究プレゼンテーション演習
卒業論文

教育研究分野

食品栄養化学



未利用食糧資源からの高機能性食品素材・成分の開発とその作用機構を解明し、食を通じた栄養生理学的機能と健康科学に関する教育研究を行っています。

食品創製科学



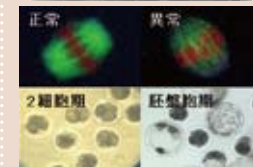
食材や未利用・低利用資源から新規食品開発につなげるための食品加工・製造・分析技術などの技術開発や応用研究について教育研究を行っています。

分子細胞生化学



主に高等植物をターゲットとして、生命及びその活動の仕組みを生化学・分子生物学的に理解・解明することを通して教育研究を行っています。

動物機能調節学



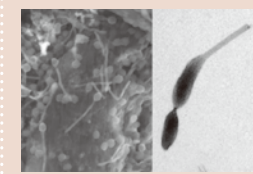
主に実験動物や家畜・家禽類の生殖生理学と発生工学について教育研究を行い、産業動物の生産や生殖補助医療の分野などへ応用可能な技術開発を目指しています。

発酵制御学



糸状菌発酵プロセスによる有用物質(酵素や生理活性物質)生産とその構造機能相関について教育研究を行い、関連産業への応用を目指しています。

応用微生物学



各種環境における微生物の多様性や生理生態学的特性の解明、さらには微生物を利用した廃棄物の再資源化や環境浄化等への応用について教育研究を行っています。

バイオマス資源学



本分野では、農産・食品系副産物を主体とした未利用バイオマスの再資源化とその循環利用に関する教育研究および事業化に向けた関連技術の開発に取り組んでいます。





植物機能開発学 コース

生物や化学、生命科学に興味を持ち、研究志向の高い学生を求めています



webページ

研究
テーマ

「フェネル種子に含まれる新規天然生理活性物質の探索」

谷 健太

北海道旭川北高等学校 出身

私は植物資源や未利用資源を対象にし、これらの有用機能の探索や改良の研究を幅広く行っている点やラボワークとフィールドワークが両方できる点に魅力を感じ植物コースを選択しました。

私が所属している生物有機化学分野では、植物の二次代謝により生産された未知の天然生理活性物質の探索や性質を研究しています。

フェネルはセリ科ウイキョウ属の多年草植物で、ハーブの一種です。葉は薬用に、茎は野菜として食用に、種子は香料として多く利用されます。フェネルには特有の香り成分であるアニトールやフェンコンがあり、他にも多くの成分が含まれています。私はフェネルの種子部に注目し、生理活性物質を有する化合物を単離・精製・構造決定することを目的に研究しています。

実験ではうまくいかないときや失敗することもあります。やりがいを感じて研究を行っています。山形大学農学部にてお待ちしております



卒業後の進路

有機化学、生理学、遺伝学、遺伝子工学などに関する幅広い学問領域の基礎を身につけ、習得した知識を生かし、生物資源や環境に関する様々な課題を能動的に見出し、これらに柔軟に対応できるプロフェッショナルな人材を育てることを目指します。



主な授業

2
年次

基礎有機化学、植物生理学、土壤生物資源学
農産物品質学、微生物資源利用学

3
年次

生理活性物質化学、在来植物資源学、植物分子育種学
植物栄養生理化学、バイオインフォマティクス演習

4
年次

植物機能開発学発表演習 - I、植物機能開発学発表演習 - II
植物機能開発学英語演習 - II、植物機能開発学英語演習 - III、卒業論文

教育研究分野

植物遺伝育種学



イネ、ムギ、大豆、紅花を対象とし、育種に関わる重要遺伝子の機能や成分、及び多様性に関する研究を、実験室での実験から、圃場での栽培、フィールド調査まで行っています。

植物栄養学・土壌学



世界各地に分布するストレス土壌における植物の耐性戦略、植物根圏における共生微生物の利用、植物土壌生態系における炭素窒素循環と地球環境の関わりを課題としています。

植物遺伝資源学



山形県の貴重な在来植物はその再評価と保存が喫緊の課題である。本分野では文献・フィールド・ラボの仕事を通じて問題解決を目指します。

農産物生理化学



農産物の品質を構成する要素の収穫後の変化とメカニズムについてメタボロミクスなどの手法を用いて研究を行っています。その成果を基礎とし、個々の農作物に適した追熟、貯蔵、流通技術の確立を目指しています。

生物有機化学



植物や微生物、動物細胞などに対して生理活性を示す化合物の構造解析や微生物による有機化合物の変換など新しい生物機能に関する基礎と応用について研究を行っています。

微生物資源利用学



有用物質変換を行う微生物のうち、未知の真正細菌や古細菌を対象として研究を行っています。生理学・生化学・分子生態学的手法を駆使し、微生物の機能解析を行っています。



主な授業

2 年次	森林資源利用学、森林政策学、森林生態学、森林情報学 森林影響学
3 年次	森林環境保全学、自然環境調査論、森林資源化学、海岸砂防学 住宅市場論
4 年次	森林科学応用演習、卒業論文

森林科学コース

自然と人間を深く知り、エコロジーの視座から地球環境の問題を解決しよう



web ページあり

研究
テーマ

「ブナの陽樹冠から枝を採取し、
葉の形質等の違いから個体差の意義を考える」

飯沼 久仁佳 千葉県立幕張総合高等学校 出身

高校時代、遺伝学に興味のあった私はバイオテクノロジーを勉強したいと思って農学部へ進学しました。ところが気分屋な私は、一年次の講義をきっかけに森林科学コースに足を踏み入れます。理由は簡単。登山が趣味の両親に育てられた私は、森歩きが好きだったから。好きなことで研究ができるのは、私にとって魅力的なことでした。そんな私は現在、同じく気分屋のブナの生態を研究しています。ブナは5〜7年に一度だけほとんどの個体が開花すると言われています。しかし実際に森を見ると、花を咲かせていないブナもいるのです。この事実が、私の探求心をくすぐりました。一斉に開花するのも不思議なのに、他の個体と同調しない「気分屋」までいるとは——。果たして気分屋は何を考えているのだろう。私は自らの知的欲求を満たすために、高所恐怖症ながらも果敢に高所作業車で地上10mの樹上から枝を採取し、今日も研究を進めています。



卒業後の進路

森林をとりまく諸問題について自然科学から社会科学まで多面的かつ総合的に学び、地域から地球レベルの問題にまで視野を拡げ、森林管理、林業・林産業、環境保全セクターの科学技術および行政を担える人材を育成します。



教育研究分野

林政学



森林・林業、山村、住宅問題等の歴史・現状・将来について、地域に暮らし働く人間の観点から、文献研究と実態調査を行い、その発展的展望を切り開く研究を行っています。

森林文化論



農山村再生の道筋を明らかにするため、経済学と教育学の視点から、地域の文化・技術に根差した資源管理のあり方を探ります。

森林保全管理学



森林が持つ機能や恵みは、多様な生物が織り成すネットワークが基礎になっています。このネットワークを紐解き、森と社会のより良い関係を創出するための研究をしています。

森林影響学



山から海岸までの広いフィールドを対象に、森林が周りの環境に与える影響（人間が期待する森林の多面的機能）や、周囲環境が森林に与える影響について研究しています。

森林生態学



芽ばえから巨木の長期の成長過程を支える柔軟な個体生理特性を森林にスケールアップして、生態系の持続性と頑健性のメカニズムをグローバルな視点から解明します。

森林資源利用学



森林内の樹木や微生物が産生する成分の分析、未利用資源（樹皮や枝葉など）の有効利用法の開発等、主に化学的視点から森林を解析・利用する研究を行っています。

森林資源計画学



森林の時空間情報を解析することで森林のダイナミクスを把握すると同時に、地球環境の変動に対応した森林バイオマスの変遷を探ります。

流域保全学



気象学、水文学、土壌学等の他分野的視点から森林科学の研究を行っています。研究活動には主に演習林を利用し、様々な環境要因を観測するために機器が設置されています。



水土環境科学コース

めざすは水と土のスペシャリスト!



webページあり

研究
テーマ

「サクラマス産卵河川における砂防堰堤 スリット化後の環境変動と課題について」

大場 梢

山形県立山形西高等学校 出身

私は、河川環境学研究室に所属しています。河川には洪水を防ぐための砂防ダムや、水田に水を送るための取水堰などの人工構造物が多く存在します。これらの構造物は、私たち人間の安全な生活を支えるとても重要なものです。河川にはさまざまな生物も生息しています。私の研究対象であるサクラマスは、産卵のために海から川へ遡上する生きものです。しかし、河川に存在する構造物によって上流への移動が阻害されていると言われています。ではどうしたら、サクラマスは産卵場まで遡上し、産卵することができるようになるのでしょうか？私は対象となる河川において何が問題であるのかを明らかにし、そして解決・改善への方策を確立することを目標としています。課題解決に向けて日々のフィールドワークを楽しみながら様々なデータを集めています。

大学は、数字や単語を暗記して満点を取る場所ではありません。自分が興味のあることを見つけ、学び追及していく場所です。ぜひ皆さんも、水土コースで興味のあるテーマを見つけ爽りのある学生生活を送ってください。

卒業後の進路

農業土木・土木系公務員(国・県・市町村)、民間(建設コンサルタント、環境コンサルタント、建設業関連)、土地改良関連団体、国際協力機関等での社会資本の整備・海外における農業開発、環境保全・環境負荷軽減対策に携わる技術者として、活躍ができる人材を育成します。



主な授業

2
年次

農村計画学、農地工学、水文学
水理学、陸水環境論、河川環境調査論

3
年次

農業水理学、地盤工学、ストックマネジメント論、地域防災論
GIS・リモートセンシング演習、水土環境実験実習

4
年次

水土環境科学研究演習 - I, II、卒業論文

教育研究分野

農村環境学

持続可能な農村の整備、安全・安心な農村生活の実現に役立つ、地盤・水圏の環境を対象とした技術開発に取り組んでいます。地盤環境については、地盤の構造を評価するための探査手法、地盤災害防止、地下水資源利用の研究を行っています。水圏環境については、水環境の汚染と浄化、水や食品の汚染による健康リスクの評価、そして途上国の衛生問題に関する研究を行っています。



農地環境学

持続的な食料生産を可能とする環境調和型農地の整備・利用をめざし、農地における水・物質・エネルギーの流れの解明とその制御に関する教育研究を行っています。



水利環境学

農業水理学、河川環境学、水圏生態学、水質水文学、環境水理学などの専門知識を基盤として、農業や農山村をめぐる様々なスケールでの水や生物などの自然現象を解明し、水環境を再生することや改善することを目指しています。



附属やまがた フィールド科学 センター



webへジャンプ!

緑豊かな教育・研究フィールド

エコ農業 部門 (農場)

農場は農学部キャンパスの南5.3キロメートル、県立公園の金峰山の麓、豊かな自然の中に立地する一団地24ヘクタールの総合農場です。ここでは、農学に関する学習、教育研究のためのフィールドであり、農業生産を実践としながらこれと一体の実習教育と研究を進めています。

実習教育では、生産現場での観察と体験を主内容とし、学部での授業と相まってフィールドに根差した農学と農業の基礎を修得させることを目的としています。



農場の魅力は、鳥海山と月山を遠望する豊かな庄内平野の水田地帯でイネ、野菜・果樹、家畜のすべてが堪能できるところでしよう。水田農業と園芸、畜産がほどよく連携できる附属農場は日本農業の縮図があるとも言えるので、総合農学を学ぶ最適な所ではないでしょうか。

今年は、山形県のおこめの新品種「つや姫」の試験栽培、循環型畜産にうってつけのヤギ飼育、佐藤錦や紅秀峰などのアウトウ栽培などに取り組んでいます。



社会教育 部門

センターの農場は朝日山地や月山を源流とする山形県内第2の大河川である赤川の下流域に、演習林は上流域に位置します。中下流域は日本有数の食料生産地帯であり、上流域はブナを中心とする冷温帯落葉広葉樹林帯です。この地域で人々は自然と関わりながら豊かな地域文化を築いてきました。当部門ではこのフィールドを活用して、体験学習、生涯学習およびリカレント教育などの社会教育を担当します。加えてアジアを中心とした開発途上国の農業技術者の研修受け入れなどの国際貢献も担当します。また、農山村地域の地域活性化に関する教育研究を行うとともに、地域文化に込められた人と自然が共生していく知恵を、これからの環境保全型社会の構築に活用する方策も研究しています。さらに、広く社会に開かれた大学として地域社会との連携を強化するためにコーディネート機能を重視するとともに、農林生産様式の変化に伴う地域情報の収集、管理発信を行います。



流域保全部門は、演習林のフィールドを対象に、持続可能な森林管理や森林生態系の修復・保全など環境保全型の森林管理技術の構築に関する教育研究を行っています。特に、演習林が我が国有数の豪雪地帯に位置することから、積雪環境と森林生態系の相互作用や利雪・親雪に関する個性的な教育研究を行っています。また、地域の里山に古くから伝わる農林業技術を継承し特色ある教育研究に生かすため、焼き畑林業や未利用森林資源の飼料化を実施し、林業と農業と畜産が共生するアグロフォレストリーの生きた教材として活用しています。

演習林の魅力は、何と云っても豊かな生物相に恵まれた753ヘクタールもの広大な森林が、鶴岡キャンパスから車でわずか40分足らずの所に存在するという点でしょう。日本海側の豪雪地帯に位置する地理的条件のおかげで、全国の大学演習林の中で最も雪の多い演習林です。このため、森林は雪の影響を大きく受けながらも強くたくましく生きています。演習林の代表樹種であるブナは、雪がまだ融けずに地面を覆っているうちに新緑となり春を迎えます。また、落葉広葉樹林を構成する多様な樹種のおかげで、秋の紅葉は実に見事です。この美しく豊かな大自然の中に身を置いて、フィールド感覚を研ぎ澄まし、豊かな自然観と創造力を養い、グローバルな環境問題について考えてみませんか。演習林における様々な実習やセミナーでの共同生活を通じて、きっと豊かな感性と友情が育まれることでしょう。



(演習林)

流域保全部門





農学部では大学院の教育・研究に力を入れており、
大学院進学を推奨しています。

山形大学大学院農学研究科 修士課程(2年間)

大学院



金谷 祐里

- 生物環境学専攻
- 市立函館高等学校 出身

「水中の薬剤耐性菌による健康影響評価手法の開発」

私たちは、普段の洗顔や入浴などはもちろん、海や川でレジャーを楽しむときや、水田や畜産での作業の際にも、水に触れる機会があります。このような水環境には、しばしば人間に感染して病気を引き起こす微生物が生息しています。近年世界的な問題となっている（抗生物質が効かない）薬剤耐性菌が検出されることもあります。私は、身近な水環境から薬剤耐性菌を検出・同定し、その水に触れた人間が感染する危険性と感染したときの健康被害を評価する手法を開発しています。医学や薬学の知識も必要で苦労は多いですが、安全な水遊びや農業活動を続けていくために必要とされているこの研究にやりがいを感じ、充実した研究生活を送っています。

大学院と聞くと身構えてしまうかもしれませんが、私の周りには将来研究者になりたいという人ばかりではなく、「卒論の研究をもっと続けたいな」とか「このまま就職するのは不安だな」といった気持ちで進学した人も多いです。皆さんにも、あまり気負わずに大学院進学を考えて欲しいですね。

岩手大学大学院連合農学研究科 ※ 博士課程(3年間)



HAYASHI, Mika

- 生物環境科学専攻
- (ドイツ・ハノーバー大学 卒業)

「アジアの都市における 大気・土壌汚染の変化に関する研究」

ここ数十年で発展途上国では急速な工業化とインフラの拡大が進み、経済成長が優先され人口が都市部に集中することで、自然環境・居住環境の悪化が進んでいます。そしてそれは人々の心身の健康に悪影響を及ぼし、さらに長期的な観点から見た時、経済成長の負担にもなります。

調査地はモンゴルのウランバートルと中国の哈爾濱に設定しています。これまで同位体を使った詳細な研究は行われておらず、年輪や土壌の安定同位体や重金属の分析によって、時間的・空間的な変化を見ることができると考えています。例えば年輪の同位体は時間分解能に優れており、時間的に汚染の変化を示すものとして利用することが出来ます。

私はドイツ出身ですが、山形大学で修士号を取得しました。ドイツと日本では大学の仕組みが違いますが、研究に専念し山形での生活を楽しんでいます。大学院は自分の思うように自由に研究でき、人間として大きく成長できる場です。

※ 岩手大学大学院連合農学研究科は、山形大学、岩手大学、弘前大学、帯広畜産大学で構成されています。構成大学からの進学者及び構成大学の修士課程を修了し、3年以内の方は入学金が免除されます。



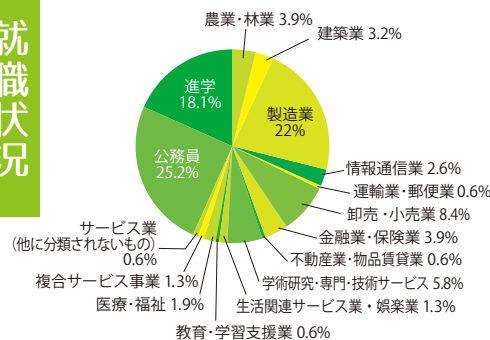
就職サポート

■ 主な就職ガイダンス ※平成27年度実績

- キャリアガイダンス(4月)
- 地方上級公務員採用試験説明会(5月)
- 職務適性テスト(5月)
- インターンシップマナー講座(6月)
- キャリアカウンセリング(6月～12月)
- 内定獲得塾(6月～2月)
- 就職セミナー(10月～2月)
- 就職模擬試験(11月)
- 就活メイク講座(1月)
- 山形大学合同企業説明会(3月)
- 農学部合同企業説明会(3月)
- グループディスカッション講座(3月)



就職状況



■ 学部生の主な就職先 ※平成27年度実績

農林水産省、林野庁、各県市町村職員、高等学校教員、各県JA、(株)ブルボン、アイリスオーヤマ(株)、(株)伊藤園、エスビー食品(株)、山崎製パン(株)、(株)七十七銀行、(株)荘内銀行、(株)NIPPON、前田製管(株)など

■ 主な進学先

山形大学大学院、東北大学大学院、新潟大学大学院、千葉大学大学院、筑波大学大学院、神戸大学大学院など

資格取得

コース	資格
安全農産物生産学コース	高等学校1種(理科、農業)
食農環境マネジメント学コース	高等学校1種(理科、農業)、食の6次産業化プロデューサー(レベル2)
食品・応用生命科学コース	高等学校1種(理科、農業)、食品衛生管理者・監視員(任用資格)
植物機能開発学コース	高等学校1種(理科、農業)、食品衛生管理者・監視員(任用資格)
森林科学コース	高等学校1種(理科、農業)、森林情報士2級、樹木医補、自然再生土補
水士環境科学コース	高等学校1種(理科、農業)、測量士補

CAMPUS LIFE IN 鶴岡

施設案内



農学部遺伝子実験室



農学部学術情報基盤センター



農学部放射性同位元素実験室



農学部図書館



前期 (4月1日~9月30日)

- 4月 学生健康診断
入学式、農学部保護者説明会
- 8月 農学部オープンキャンパス
夏期セミナー
夏期休業 (8/2~9/30)
- 9月 山形大学ビーチサッカー大会

後期 (10月1日~3月31日)

- 10月 学部長杯ソフトボール大会
- 11月 鶴寿祭
- 12月 冬期休業 (12/25~1/10)
- 3月 学位記授与式



夏期セミナー



オープンキャンパス



ビーチサッカー大会

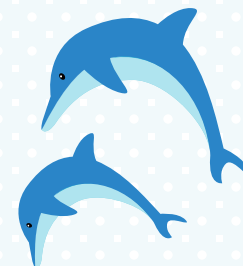


学位記授与式

サークル & ボランティア



鶴岡ビリヤードサークル



農学部タキタロウ
ボランティアサークル



エコ・キャンパス推進委員会

学生寮

鶴岡キャンパスからすぐ近く(0.5km)、平成24年度に改修を行いました。男女とも入居可能な完全個室型です。
(収容定員71名・寄宿寮 18,000円/月・光熱水費約7,000円/月)
大部分の学生は鶴岡市内にアパートを借りて生活していますが、昔ながらの下宿なども残っています。



啓明寮

大学生協

構内には食堂と売店があります。売店には、教科書や文具類はもちろん、電化製品、灯油、JRやバスのチケットまでそろっています。

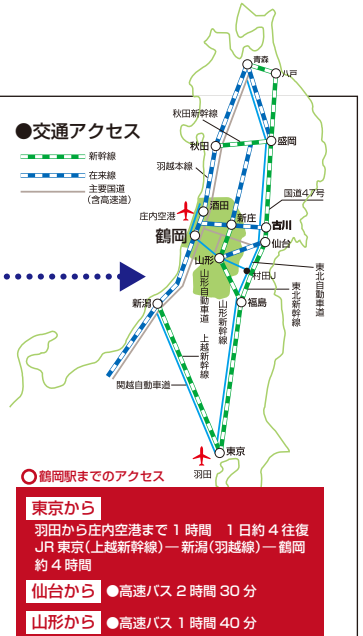
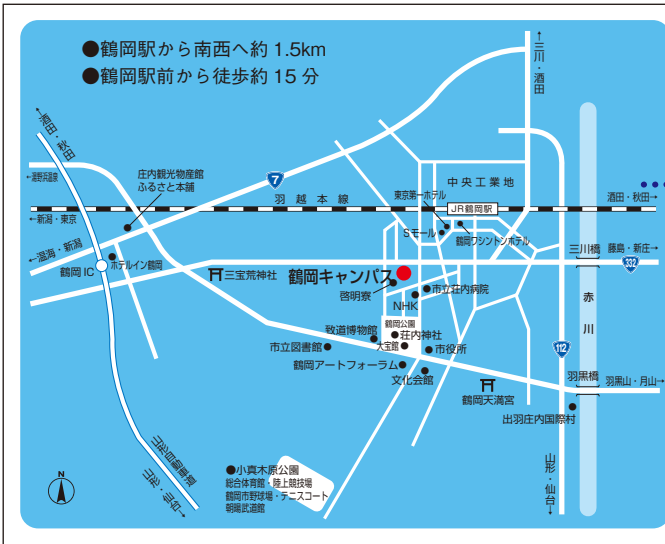
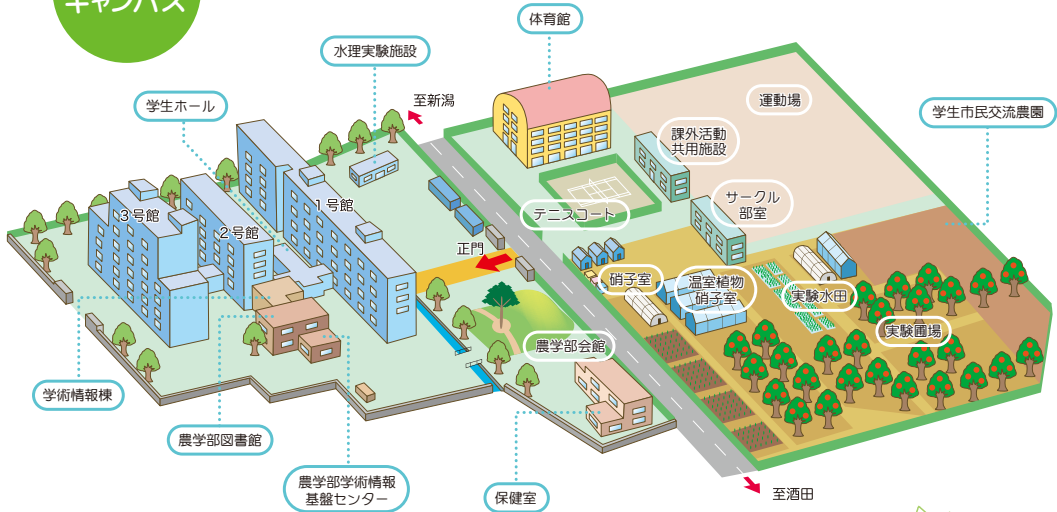


生協店舗

アルバイト情報

学務担当では主に家庭教師、大学図書館補助員、農業関係のアルバイトを紹介しています。その他については、生協で斡旋しています。

鶴岡 キャンパス



山形大学農学部

〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町 1-23
 TEL: 0235-28-2808 FAX: 0235-28-2814
 E-mail: nogaku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

●この山形大学農学部案内でご不明な点や、より詳しく知りたい方は、上記までお問い合わせください。

<http://www.tr.yamagata-u.ac.jp/>

Web TOPへ



リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。